

【銀座三越・長崎フェア「食べてみんな!長崎」】

長崎県自慢の「食」を首都圏でPR



3月20日から26日までの7日間、東京の銀座三越に長崎県自慢の海の幸、山の幸を一堂に集めて、「長崎フェア『食べてみんな!長崎』」が開催されました。このフェアは、本県の多彩な「食」の魅力を首都圏の消費者にPRすることを目的としたもので、開会セレモニーでは金子知事が「長崎県産品の販売拡大につながるものと大いに期待しています」とあいさつ。長崎県ブランド大使で女優の栗原小巻^{くりはら こまき}さんも応援に駆けつけました。

会場には長崎アスパラ、長崎さちのか(イチゴ)、長崎びわ、長崎和牛、平成「長崎俵物」、五島手延うどん、佐世保バーガーなど、長崎県を代表する食材が勢ぞろいし、多くの買い物客でにぎわいました。



【五島手延うどんの販売会社「(株)長崎五島うどん」の創立総会】

首都圏での販路拡大
全国展開を目指して

新上五島町の特産品で、長崎県を代表するブランドとして知られている五島手延うどんの販売会社、「(株)長崎五島うどん」の創立総会が3月28日、同町で行われました。

同社は、日本三大うどんの一つに数えられる五島手延うどんの販路拡大を図るため、地元の製麺業者ら36名が出資して設立。旧有川港ターミナルビル1階に本社を、東京に営業所を設置して、都内の百貨店や高級スーパーなどを中心に展開することとしています。

商品の製造は出資者を中心とした地元の製麺業者が行い、4月3日から営業を開始。初年度は1億円の売り上げを目標にして、5年後には5億円を目指しています。県もこの会社に出資を行うなど、産地が一体となった取り組みを支援しています。



【中央発條(株)立地協定調印式、長崎県自動車関連産業振興協議会設立総会】

弾みがつく自動車関連市場への新規参入

3月26日、オフィスパーク大村に進出が決まった中央発條(株)(本社:名古屋市)の立地協定調印式が長崎市内で行われました。同社は、自動車用ばね製造の大手メーカーで、自動車関連の東証一部上場企業が進出するのは本県で初めて。4月には子会社「(株)長崎中発」を設立し、来年2月から生産を開始する予定で、約70人の新規雇用が計画されています。

近年、北部九州では自動車関連産業の集積が著しく、本県企業にとっても大きなビジネスチャンスが生まれていることから、地場企業や誘致企業32社と産学官の支援機関からなる「長崎県自動車関連産業振興協議会」が設立され、3月27日に長崎市内で設立総会が開催されました。今後、協議会では、県内企業の自動車関連市場への新規参入や、取引拡大に向けた積極的な取り組みを展開していくこととしています。

【第1回ながさき子育て支援表彰式、認定こども園認定書交付式】

地域ぐるみで子育て支援



3月15日、子育て支援に功績のあった個人や団体を表彰する「ながさき子育て支援表彰式」が、長崎市内のホテルで行われました。この表彰は、社会全体で子育てを支援する気運を高めようと、県が創設した新しい取り組みで、学校周辺の防犯パトロールなどを実施している個人や団体、子育てと仕事の両立を支援している企業など、8団体、8個人、7家族、2企業が表彰されました。

また、幼稚園と保育所の良いところを活かしながら、両方の役割を果たす認定こども園に、佐世保市の「光の子グレース幼稚園」と「光の子保育園」が本県で初めて認定され、3月27日、県庁で認定書が交付されました。同じ敷地内にある両園は、教育と保育を一体的に実施するほか、親子登園による育児相談を行うなど、地域の子育て支援を担う拠点としての役割が期待されます。



知事から認定書を受け取る河野園長(右)



多くの参加者でにぎわうレセプション会場

【ながさき食談を開催】

著名人と語らいながら
長崎県の「食」を満喫

3月16日、長崎市のグラバー園野外イベント広場で、「ながさき食談歓迎レセプション」が行われました。

「ながさき食談」は、海、山、島々など豊かな自然と、海外との交流の歴史によって育まれた長崎ならではの「食」を、各界の著名な方々とともに楽しむイベントとして昨年からスタート。

2回目となる今年は、本県出身のテレビキャスター草野^{くさの}仁^{ひとし}さんをはじめ、10人の著名人を講師として迎え、長崎会場(16日)、雲仙会場(17日)で開催。長崎会場での食談終了後に行われた歓迎レセプションでは、講師や参加者など約200人が、グラバー園からの夜景や県産の食材を満喫しました。



【松浦市の2団体が「オーライ!ニッポン大賞」グランプリを受賞】

体験型教育旅行の先進事例として
高い評価を獲得

3月14日、農林水産省などが主催する「オーライ!ニッポン大賞」のグランプリ(内閣総理大臣賞)に選ばれた松浦市のNPO法人「体験観光ネットワーク松浦党」と「松浦体験型旅行協議会」の授賞式が、東京都内で行われました。

オーライ!ニッポン大賞は、全国の都市と農山漁村の交流を促進する優れた活動に対して贈られるもので、全国90件の応募の中から本県の2団体が見事栄冠を獲得しました。

両団体は、北松浦半島とその周辺の島々の自然や、農林水産業などを活かした90種類の体験プログラムを用意し、農家や漁家への民泊を中心に年間約1万人もの修学旅行生を受け入れています。地域住民に無理のない形で組み立てられた体験型教育旅行の先進事例として、高い評価を受けました。

※オーライ!ニッポン都市と農山漁村のオーライ(往来)の活発化を図ることにより、日本が健全(all right)になることを表現したもの。